

0595

第一五五號

(裁決)行決後 覽回後		帶連		決行指定		決裁指定		永久		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		件名		受領番號			
				事務次官		特許證送付、件		宏弟五一四號具五			
				官							
長課		長課		長局務主官副級高 官與參							
				長課務主		書記官		起元應(課名)			
				副官							
				員課務主							
				房官臣大		主務局					
				了結領受		出提領受		番號			
				昭和 年		昭和 年		昭和 年		昭和 年	
				九月廿七日		九月廿七日		八月一日		九月廿七日	

政務官同付(決行前)

(決行後)

審案
筆記者

陸

軍

陸軍科學研究所

(陸密)

副官、陸軍科學研究所長（通）藤（教諭部）
 十年四月十九日附陸科研秘第ニ〇號、係ル左記
 出願秘密特許、圖ニ別紙、通特許証送付ス

左記

有線遠隔測御、依ル又焰放射裝置

陸密第一二九八號 昭和三年九月廿三日



寫

許第一二五八一ノ文

特許證

陸軍大臣

官房控

發明者東京府石川清一 谷杉郎次郎 味尾萬 須藤清心

發明ノ名稱 有線遠隔制御・依ル火筒放射装置

出願公告 昭和 年 月 日 秘密特許 任出願公告

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ本證ヲ
下付ス

昭和 年 月 日

特許署長官 石井 銀 閣

昭和十三年八月二日 發 送

特許査定謄本

昭和十三年特許願第七三三九號

發明人名稱 柳綿素一 隔製御 徳久大造 放射線

出願人 陸軍大臣

代理人

出願公告昭和十三年三月 甲

右出願ニ付査定ハルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絕ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ

之ヲ特許スヘキモノトス

昭和十三年七月十五日 特許局審査官

千代孝太郎

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和十三年七月十四日

特許局屬

櫻川一磨



(シヘス意注ニ項事載記ノ面裏)

6650

領 録 通 知

秘 録

昭和 10 年特許願第 723 号
出願公告日 昭和 年 月 日
納付者 陸軍人医
代理人
領年月日
領金 金三十圓也 第一年乃至特許料 第三年分
登年月日 昭和13年 7月 18日
特番 第 125817 号 許號

- 注 意
- 第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登録ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
 - 特許證ハ追テ交付ス

車 庫

第五十四

昭和 13.7.21 前午 陸軍省 官 大

陸軍省 13.7.21 特許 登記

送

取



陸軍技術本部經由

第五一四

三

5.19

陸

陸科研秘第一一〇號

特許明細書訂正ノ件上申

昭和十三年五月十七日

陸軍科學研究所長

多田

陸軍大臣 杉山 元殿

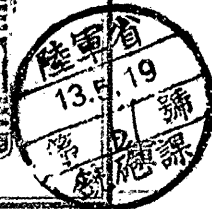


昭和十年四月十九日陸科研秘第二〇號ヲ以テ上申セル左記秘密扱特許(昭和十年特許願第七二三九號)明細書中不備ノ點有之別紙ノ通訂正明細書四通進達セシニ付訂正方取計相成度

追テ發明ノ名稱モ訂正明細書ノ通改正セシニ付申添フ

左記

有線遠隔制御方式火焰放射裝置



1090

訂正明細書差出、件々明細書(目録)
大臣捺印、捺印、上特許、送達
在申

昭和三年五月十五日

官房御中

昭和拾陸年五月廿五日



特許第六二六號

訂正明細書差出ノ件

昭和十年特許願第七二三九號

發明ノ名稱 有線遠隔制御ニ依ル火焰放射裝置

右出願ニ關シ別紙ノ通訂正明細書差出候也

昭和十三年五月二十五日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣 杉 山

元

特許局長官 石井 銀次郎



8090

明

細

書

明細書

發明ノ名稱

有線遠隔制御ニ依ル火焰放射裝置

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ管制器ニ依リ遠隔制御セララル車輛ニ搭載使用スル火焰放射裝置ニ於テ壓縮瓦斯若ハ電動唧筒ニ依リ液体燃料ヲ發射管ヨリ噴出セシメ電氣點火法ニ依リテ點火シ火焰ヲ放射セシムヘクセル裝置ニ係リ、其ノ目的トスル所ハ有線遠隔制御ニ依リ車輛ヲ充分有效ナル地點迄進出セシメ、火焰放射ヲ危險無ク遂行セシムヘキ斯種裝置ヲ得ルニ在リ

圖面ノ略解

添附圖面ハ本發明ノ火焰放射裝置ヲ示スモノニシテ第一圖ハ壓縮瓦斯ニ依ル裝置ノ平面圖、第二圖ハ電氣的結線圖、第三圖ハ電動唧筒ニ依ル裝置ノ側面圖、第四圖ハ同平面圖ヲ示ス

發明ノ詳細ナル説明

壓縮瓦斯ニ依ル裝置ヲ第一圖ニ就キテ説明スレハ、電動機(2)軸ニ取付ケラレタル齒車(3)ハ壓縮瓦斯容器(5)ノ開閉辨齒車(4)ト嚙合シ、壓縮瓦斯容器(5)ハ送壓管(6)ヲ介シテ油槽(1)ニ連結ス、油槽(1)ハ連結管(9)辨(10)連結管(9)ヲ通シテ發射管(11)ニ連結シ、發射管(11)ノ頭部ニハ點火裝置(12)ヲ有ス、辨(10)ノ辨棒(8)ハ電磁石(7)ノ可動鐵心ニ連結セラル(13)ハ點火繼電器ニシテ點火裝置(12)ノ電氣

回路ヲ構成セシムルモノナリ、(14)ハ電源接続用端子板
 ニシテ電動機(2)、電磁石(7)、點火繼電器(13)ト電氣的ニ
 接続セラレタルモノナリ、猶(15)ハ臺板ニシテ有線遠隔
 制御車輛ニ螺著セラル

擬本裝置ノ動作ヲ第一圖、第二圖ニ就キテ説明センニ
 本裝置ヲ有線遠隔制御車輛ニ裝著シ車輛ヲ運行セシメ
 目的地點ニ到達シタルトキ發射管ノ方向ヲ目的物ニ一
 致セシメ(本圖ニテハ省略セルモ有線遠隔制御ニ依リ
 電動機ニ依リテ行フ)次テ電動機(2)ニ送電スルトキハ
 齒輪(3)カ回轉シ、壓縮瓦斯容器(5)ヲ開辨シ、同時ニ電
 磁石(11)⁽¹⁷⁾ニ送電シ辨(10)ハ開辨サレ送壓管(6)ヲ通シテ油槽
 内燃料ヲ壓スル壓縮瓦斯ノ爲燃料ハ連結管(9)ヲ經テ發

射管(11)ヨリ噴出ス、此ノ際點火用繼電器(13)ヲ作動セシ
 ×點火裝置(12)ノ電氣回路ヲ構成セシメ燃料ニ點火セシ
 ムルモノニシテ途中燃燒消滅スル如キコトアラハ更ニ
 點火用繼電器(13)ヲ作動セシメ燃燒ヲ繼續セシムルコト
 ヲ得ルモノナリ
 次ニ第三、第四、兩圖ニ就キテ電動唧筒ニ依ル裝置ヲ
 説明センニ唧筒(1)ハ電動機(2)ニ連結セラレ吸油管(3)ニ
 依リ油槽(4)ト結合セラル、唧筒(1)ハ連結管(5)ニ依リ止
 辨(6)ト連結セラレ止辨(6)ハ辨軸(7)ヲ介シテ電磁石(8)ニ
 連結セラルルヲ以テ電磁石(8)作用スルトキハ辨ヲ開キ
 又電磁石(8)ノ電流ヲ斷ツ時ハ止辨(6)内ニ有スルばねニ
 依リ辨ハ閉鎖ス、止辨(6)ノ排出口ハ曲管(9)ニ依リ發射

管(10)ニ連結セラレ發射管ノ頭部ニハ點火裝置(11)ヲ有ス
 擬本裝置ノ動作ヲ説明センニ本裝置ヲ有線遠隔制御車
 輛ニ裝著シ車輛ヲ運行セシメ目的地點ニ到達シタルト
 キ發射管(10)ノ方向ヲ目的地ニ一致セシメ次テ電動機(2)
 ヲ廻轉セシメ同時ニ電磁石(8)ヲ作動セシムルトキハ唧
 筒(1)ハ燃料ヲ吸上ケ止辯(6)ハ開キテ發射管(10)ヨリ燃料
 ヲ放射ス次テ點火裝置ニ送電シ放射中ノ燃料ニ點火セ
 シムルモノナリ
 本發明ハ上述ノ如クナルヲ以テ總テ之ヲ有線遠隔制御
 ニ依リ操作スルモノニシテ車輛ノ運行、燃料ノ發射並
 ニ點火ハ夫々單獨ニ若ハ同時ニ遂行セシムルコトヲ得
 ルモノナリ、從テ狀況ニ應シ車輛運行中火焰ヲ放射セ

シムルコトヲ得ルモノトス

特許請求ノ範圍

本文ニ詳記シ且別紙ニ示ス如ク、管制器ニ依リ遠隔制御セラルル車輛ニ搭載使用スル火焰放射裝置ニ於テ壓縮瓦斯若ハ電動唧筒ニ依リ液体燃料ヲ發射管ヨリ噴出セシメ、電氣點火法ニ依リテ點火シ、火焰ヲ放射セシムヘクセルコトヲ特徵トスル火焰放射裝置

陸軍大臣 杉山 元

説明ターゲット

次の原稿青焼の
ため不鮮明な部
分あり | 0610~0612 |

4 年 9 月 4 日

主務者又は

撮影立会者

加部東 保夫



図 7

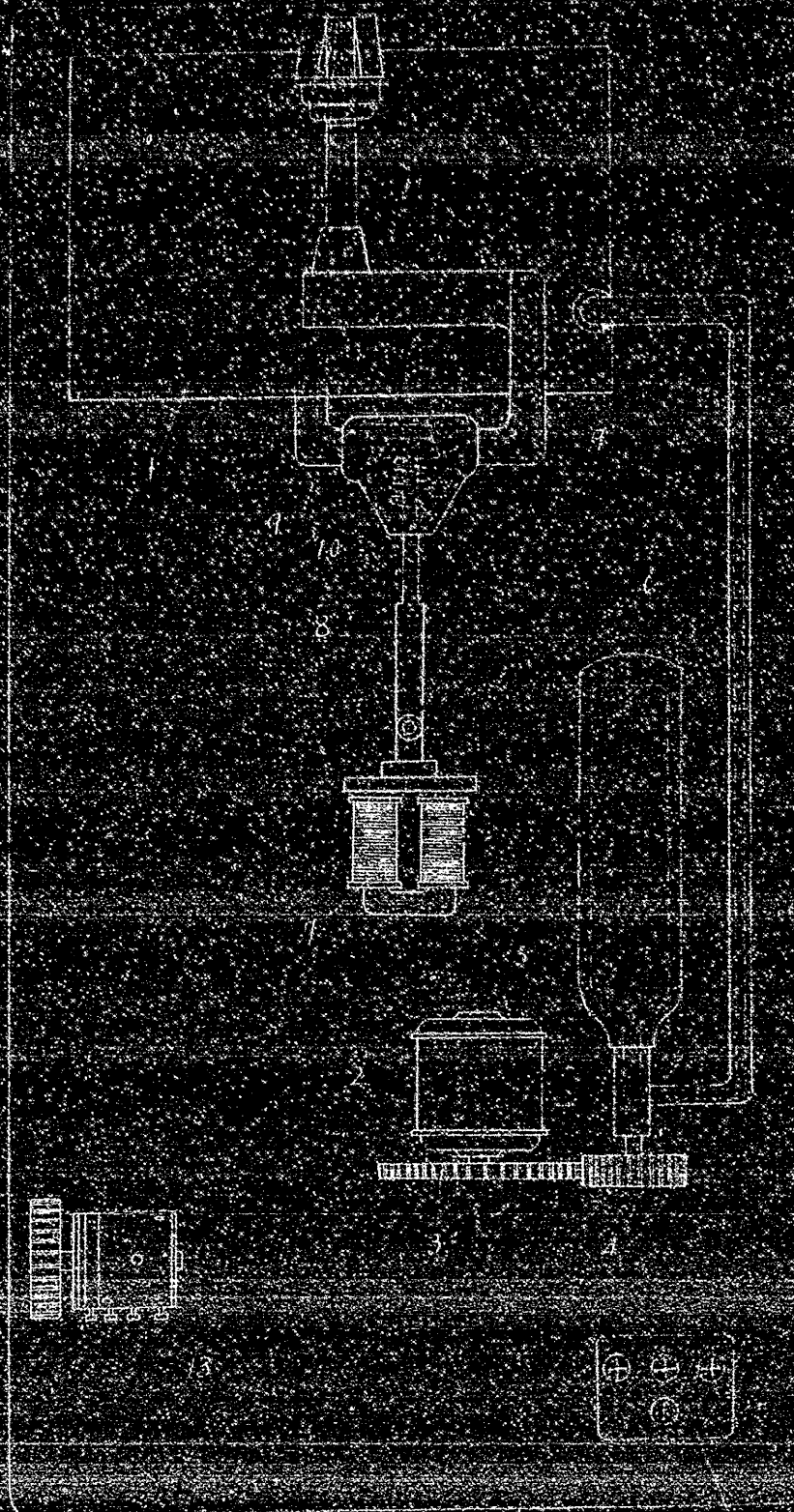
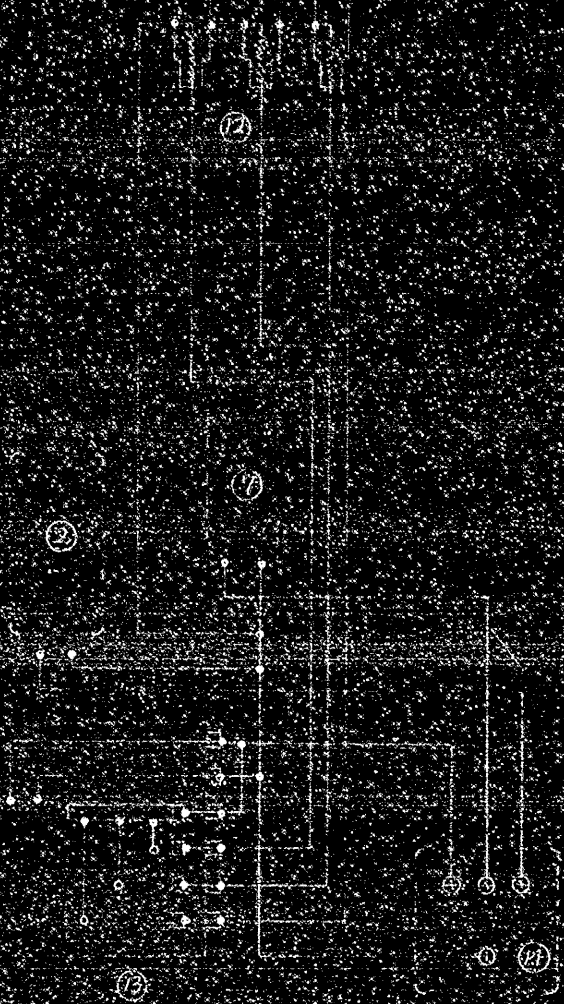
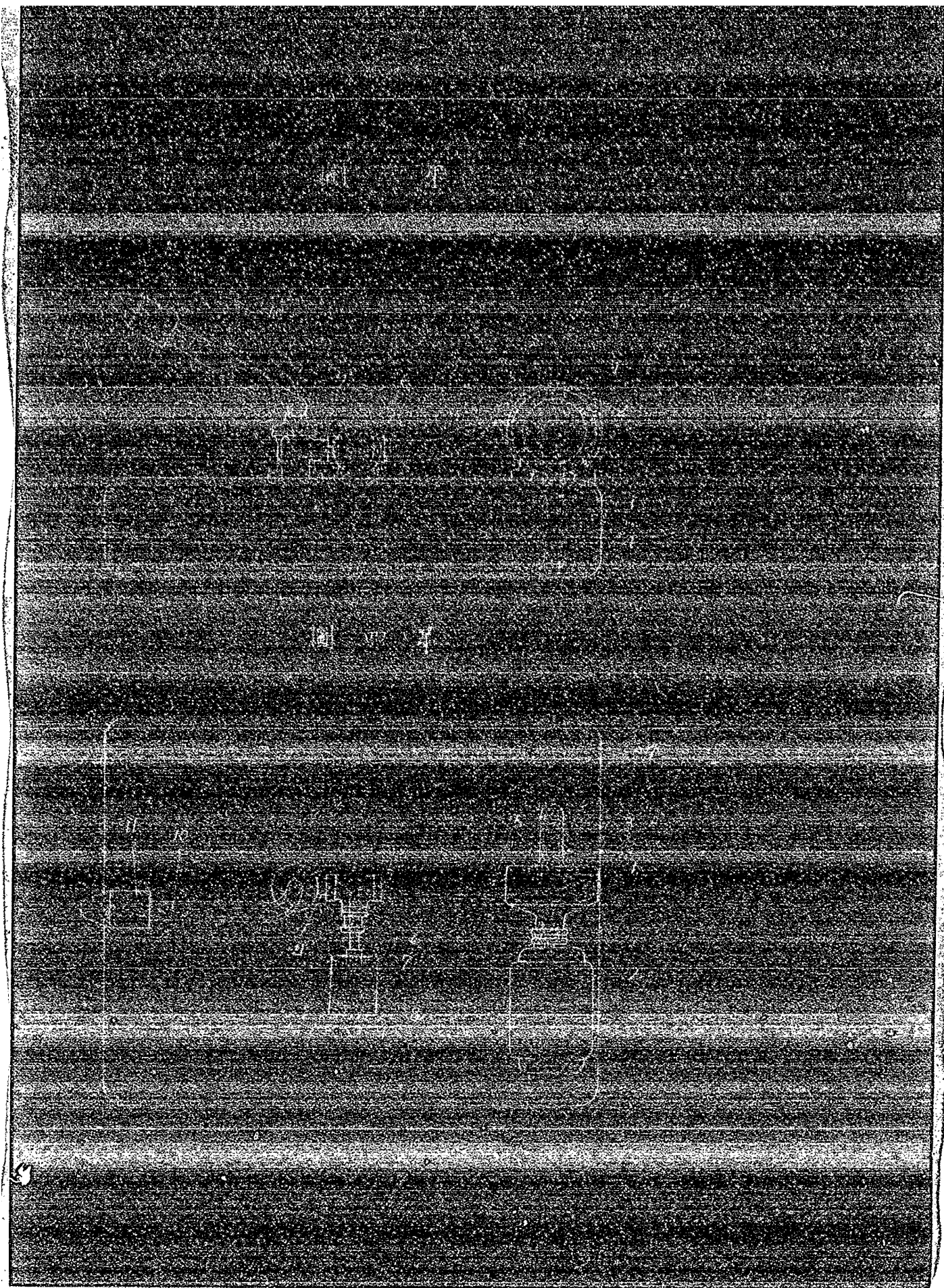


図 3





2-5190

一〇庶第三二〇號ノ二

昭和十一年一月十日

特許局長官 中 松 眞 卿

陸軍次官 古 莊 幹 郎 殿

客年六月十八日附一〇庶第三二〇號ヲ以テ昭和十年特許願第七二三八號乃至第七二四一號及同第七二八一號ノ審査官トシテ指定致置候當局技師白水常雄ヲ兼任當局技師于川芳太郎ニ指定變更致候條右御了知相成度此段及通知候也



日本標準規格 B5 (182×257mm)

保存期限	永久	決裁指定	決行指定	牛島
------	----	------	------	----

アジア歴史資料センター

陸 次官ヨリ特許局長官へ回答

六月十八日附十度第三二〇號ヲ以テ通知ニ係ル
審査官指定ノ件、異存無之ニ付御了解相成度
此致及回答候也

陸審第四四四號 昭和十年六月廿四日

陸 副官ヨリ陸軍科學研究所長へ通牒(技術本部)

三月十二日附陸科研秘第一〇號同第一二號及四月
十九日附陸科研秘第二〇號同第二二號ニ依ル出願
特許ニ関シ別紙寫通特許局ヨリ通牒アリタルニ
付依命通牒ス

陸審第四四四號

昭和十年六月廿四日



第 五 一 四 一 號

十庶第三二〇號

第五一四一

願書番號通知



昭和十年特許願第

7239 (第401)

號

昭和十年六月十一日差出ニ係ル特許願書ニ附

シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ必

ス之ニ前記願書番號昭和十年特許願第 號及發明ノ名

稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用スヘシ

昭和十年六月拾一日

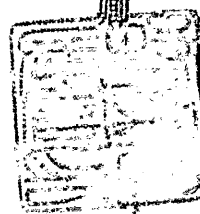
特許局

5190

代理人 陸軍大臣 殿

日本標準規格 B6 (128×182mm)

特



一日附同第四〇四

秘密特許願ノ審査

了知相成度此段及

成度申添候

日本標準規格 B5 (182×257mm)

陸軍省

第

號

特

十庶第三二〇號

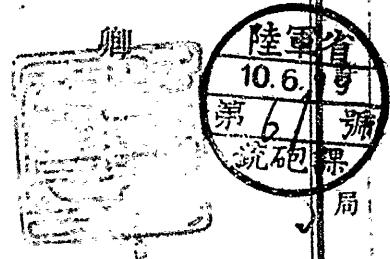
昭和十年六月十八日

特許局長官 中 松 眞

陸軍次官 橋本虎之助 殿

六月十日附陸密第四〇一號乃至第四〇三號、同月十一日附同第四〇四號及同月十二日附同第四一〇號ヲ以テ御差出ニ係ル秘密特許願ノ審査官トシテ孰レモ當局技師白水常雄ヲ指定致候條右御了知相成度此段及通知候也

追テ願書番號通知書各通同封致置候ニ付御查收相成度申添候



日本標準規格 B 5 (162×257mm)



陸軍技術本部經由

五一四

陸科研秘第二〇號

祕密特許出願ノ件上申

昭和十年四月十九日

陸軍科學研究所長 久村 種樹

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

左記品目ニ對シ別紙讓渡證式通、特許願並明細書、圖面各四通添付進達セシニ付祕密取扱ニテ特許出願セラレ度

左記

一、發明ノ名稱 有線遠隔制御方式火焰放射裝置

二、發明者

東京市杉並區天沼二丁目四百六拾四番地

陸軍工兵大尉

石川

清一

東京市淀橋區戸塚町四丁目八百四拾四番地

員 谷

杉

勘次郎

東京市淀橋區柏木五丁目千十四番地

員 妹

尾

篤

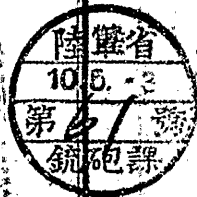
東京市澁谷區代々木山谷町二百九拾壹番地

員 須

藤

清

正



軍

LT90

カク房御中

昭和十年六月十日



ヒラシ

昭和拾年六月拾日

銃砲課



本文甲越一通初巻特許願及明
細書(圓面)ニ大臣捺印止(憲法ニ印)
譲渡證ト共ニ特許局へ送(達)

祕密特許願

特許願書四〇一號 昭和十年六月十日

一發明ノ名稱

有線遠隔制御方式火焰放射装置

一發明者

東京市杉並區天沼二丁目四百六拾四番地

發明者

東京市澁橋區戸塚町四丁目八百四拾四番地

發明者

東京市澁橋區柏木五丁目千十四番地

發明者

東京市澁谷區代々木山谷町二百九拾七番地
妹尾 篤
須藤 清 正

右出願ニ関シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付祕密特許相受度候也

昭和十年 月 日

東京市麹町區永田町二丁目一番地

陸軍大臣

林 銑十郎

特許局長官 中 松 眞 卿 殿

添附書類目録

一 明細書 貳通

一 圖面 貳通

一 譲渡證 壹通

讓 渡 證

一、發明ノ名稱 有線遠隔制御方式火焰放射装置
 右私等ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ讓渡致候也

昭和十年四月十九日

東京市杉並區天沼二丁目四百六拾四番地

石川 清一

東京市淀橋區戸塚町四丁目八百四拾四番地

谷 杉勘次郎

東京市淀橋區柏木五丁目千拾四番地

妹 尾 篤

東京市澁谷區代々木山谷町貳百九拾壹番地

須 藤 清正

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

0620

明

細

書

明細書

發明ノ名稱

有線遠隔制御方式火焰放射裝置

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ甲及乙ノニ裝置ヲ含ムモノニシテ甲ハ燃料發射管カ上下俯仰運動ノミヲ行ヒ得ル構造ヲ有シ、液体燃料ヲ壓縮瓦斯ニ依リ發射口ヨリ噴出セシメ、電氣點火法ニ依リテ點火シ火焰ヲ放射セシムルモノニシテ乙ハ左右及上下方向ニ自由ニ運動セシメ得ヘキ構造ヲ有スル發射口ヨリ液体燃料ヲ電動唧筒ニ依リ發射セシメ電氣點火法ニ依リテ點火シ火焰ヲ放射セシムルモノニシテ、甲及乙共ニ有線遠隔制御方式車輛ニ裝著スヘク

セル装置ニ係リ、其目的トスル所ハ有線遠隔制御方式
車輛ニ裝著シ、火焰放射ヲ有線遠隔制御方式ニ依リ遂
行セシムヘキ火焰放射裝置ヲ得ルニ在リ

圖面ノ略解

添附圖面ハ本發明ノ火焰放射裝置ヲ示スモノニシテ第
一圖ヨリ第四圖迄ハ甲裝置、第五圖ヨリ第八圖迄ハ乙
裝置ニ依ルモノヲ示ス

第一圖ハ有線遠隔制御方式車輛ニ裝著セル甲裝置ノ斜
面圖、第二圖ハ甲裝置ノ平面圖、第三圖ハ同點火裝置
ノ縱断面圖、第四圖ハ同電氣的結線圖ナリ、第五圖ハ
乙裝置ノ側面圖、第六圖ハ同平面圖、第七圖ハ同點火
裝置ノ縱断面圖、第八圖ハ同點火裝置ノ横断面圖ナリ、

發明ノ詳細ナル説明

本發明ヲ圖面ニ依リ説明センニ甲裝置ヲ第二圖ニ就キ
 テ説明スレハ台板(1)ハ有線遠隔制御方式車輛ニ螺著セ
 ラルルモノニシテ電動機(2)軸ニ取付ケラルタル齒車(3)
 ハ壓縮瓦斯容器(6)ノ開閉辨齒車(7)及切換開閉器(5)ノ轉
 把ト啮合シ、壓縮瓦斯容器(6)ハ送壓管(11)ヲ介シテ送壓
 孔(12)ニ依リ油槽(13)ニ連絡ス、(14)ハ油槽(13)ニ取付ケラレ
 タル安全弁ニシテ油槽ニ一定以上ノ壓力加ハル時開辨
 シ油槽ヲ安全ナラシムルモノニシテ(15)ハ燃料注入口ナ
 リ、油槽(13)ハ連結管(16)辨(17)及發射管軸(19)ヲ通シテ發射
 管(20)ニ連絡シ、發射管(20)頸部ニハ發射口(21)及點火裝置
 (22)ヲ有ス、發射管軸(19)ノ一端ハ連結桿(26)ニ依リ電動機

(28) 軸 = 取付ケラレタル曲軸臂 (27) ト連接シ、電動機 (28) /
 回轉運動ハ連結桿 (26) = 於テ往復運動 = 変換セラレ發射
 管 (20) ハ俯仰運動ヲナスモノナリ、辨 (17) ノ辨棒 (23) ハ桿 (30)
 = 依リ電磁石 (10) ノ可動鐵心 = 連結サレ、ばね桿 (31) ハ辨
 棒 (23) ラ下方ヨリ押シツツ之 = 接ス、桿 (30) ノ一端ハ切換
 開閉器 (9) ノ轉把 = 吻合セルヲ以テ、電磁石 (10) カ作用ス
 ル時ハ切換開閉器 (9) ノ切換ヘヲ行フト共ニ辨 (17) ハ開キ
 ばね桿 (31) 支棒ハ辨棒 (23) = 設ケラレタル溝 (28) = 入り電磁
 石 (10) ノ電流切断サルルトモ辨 (17) ハ開閉ノ状態ヲ保ツ、
 點火用繼電器ハ電磁石 (24) 可動鐵心 (25) 及之 = 依リ回動セ
 ラルヘキ回轉胴 (32) ヨリ成リ回轉 = ハソノ回轉 = ヨリ順
 次ニ點火具ノ數 = 應シ(圖ニハ三箇ノ場合ヲ示ス) 電路ヲ

構成スヘクセル接點及之ニ接觸スル刷子ヲ有スルモノ
 ナリ、點火裝置(22)ハ第三圖ニ示ス如ク發射口(21)ニ裝著
 スルモノニシテ發射管(20)ト絶縁筒(34)ニ依リテ絶縁セラ
 レ其外周ニ點火具室(35)ヲ有ス(圖ニハ三箇ノ場合ヲ示ス)
 點火具室(35)ハ内ニ絶縁管(36)ヲ有シ其中ニ接觸子(37)ヲ締
 著シ點火具ヲ挿入シタル時ばねニ依リ接點ノ接觸ヲ緊
 密ナラシム、點火具(38)ハ藥筒(39)内ニテマンガニン抵抗
 線ヲ捲付ケタルファイバール片ノ周圍ニ點火劑ヲ充填シ
 タルモノニシテ藥筒外匡ヲ一電極トシテ使用スルモノナリ、
 シタル接觸子(41)ヲ他ノ一電極トシテ使用スルモノナリ、
 又、本裝置ノ動作ヲ説明センニ、本裝置ヲ有線遠隔制
 御方式車輛ニ裝著シ車輛ヲ運行セシメ目的地點ニ到達

シタル時發射管ノ方向ヲ目的物ニ一致セシメンカ爲左
 右方向ハ車輛ノ方向変換ニ依リ上下方向ハ電動機(28)ノ
 回轉ヲ曲軸臂(27)連結桿(26)ニ依リ往復運動ニ変換シ以テ
 發射管(20)ノ方向ヲ目的物ニ指向セシム。次テ電動機(2)
 ニ送電スル時ハ齒輪(3)カ回轉シ壓縮瓦斯容器(6)ヲ開辦
 シ同時ニ切換開閉器(5)ヲ切換ヘ第四圖ニ示ス如ク電動
 機(2)ハ停止シ切換開閉器(9)ノ電路ヲ構成シ電磁石(10)作
 用ス。然ルトキハ辦(17)ハ開辦シ送壓管(11)ヲ通シテ油槽
 ラ壓スル壓縮瓦斯ノ爲燃料ハ連結管(16)ヲ經テ發射口ヨ
 リ噴出ス。而シテ電磁石(10)作用スレハ切換開閉器(9)ハ
 直ニ切換ヘラレ點火用繼電器作動シテ點火具内ノ抵抗
 線ヲ熱シ其發熱ニ依リ點火劑ハ發火シ其火焰ヲ前方ニ

吹出し噴出セシ燃料ニ点火スルモノニシテ途中燃焼消滅スル如キコトアラハ更ニ点火继电器ヲ作用セシメ燃焼ヲ継續セシムルコトヲ得ルモノナリ

次ニ第五圖及第六圖ニ就キテ乙装置ヲ説明センニ、唧筒(1)ハ電動機(2)ニ連結セラレ吸油管(3)ニ依リ油箱(4)ト結合セラリ、唧筒(1)ノ排出口(5)ハ連結管(6)ニ依リ止弁(7)ト連結セラレ止弁(7)ハ辨軸(8)ヲ介シテ電磁石(9)ニ連結セラルルヲ以テ電磁石(9)作用スル時ハ辨ヲ開キ又電磁石(9)ノ電流ヲ断ツ時ハ止弁(7)内ニ有スルばねニ依リ辨ハ閉鎖ス、止弁(7)ノ排出口ハ曲管(10)ニヨリ左右方向台板(11)ニ連結セラレ又左右方向台板(11)上ニハ上下角度台板(12)ヲ装着ス、發射管(13)ハ円運動ヲ爲シ得ル如ク上

下角度台板(14)ニ裝著セラレ發射口ニ點火裝置ヲ有ス
 電動機(14)軸ニ裝著シタル齒車(15)ハ減速裝置ノ「ヴォー」
 (16)ニ直結セラレタル齒車(17)ニ啮合シ「ヴォー」(16)ハ「ヴォー」
 トハ齒車(18)ト吻合ス、「ヴォー」ハ齒車(18)ハ「ヴォー」
 曲軸(19)ニ直結シ「ヴォー」ハ放射管(19)ノ外部ヲ滑動スルト共
 ニ曲軸(19)上ヲモ滑動スル如ク構成セシム、電動機(21)軸
 ニ直結シタル齒車(22)ハ齒車(24)「ヴォー」(23)「ヴォー」ハ齒車
 (25)及曲軸(26)ヲ介シ連結桿(27)ニ依リ左右方向台板(11)ノ腕
 部ニ連結セラレ電動機ノ回轉ヲ往復運動ニ變換セシム、
 點火裝置(28)ハ第七圖及第八圖ニ示セル如ク、發射管(13)
 頭部ニ發射口(29)ヲ有シ外部ニ絶縁体(30)ニヨリ絶縁サレ
 タル點火具保持金(31)ヲ設ケ其周圍ニ點火具室(32)ヲ有ス、

其數ハ油槽ノ容積ニヨリ異ルモ、圖ニ於テハ八箇ノ場
 合ヲ示ス、點火具(32)ハ外筒(34)内ニマンガニ線(35)ヲ捲
 キタルフアイバ」片(36)ヲ有シ其周圍ハ點火劑ヲ充填ス、
 マンガニ線ノ一端ハ外筒(34)ニ、他端ハ絶縁筒(37)内ニ
 收容サレタル可熔線(38)ニ夫々接續セラレ絶縁筒(37)ハ外
 筒(34)内ニ嵌挿固着ス、點火具(32)ノ可熔線(38)尾端ハ接觸
 片(37)ヲ介シテ回轉環(40)ニ接觸ス、回轉環(40)ハ接觸環(41)
 ヲ有シ接觸子(42)ト常ニ接觸ヲ保チ接觸環(41)ノ凸部ニ於
 テ其回轉ニ依リ接觸片(37)(圖ニハ八箇ノ場合ヲ示スニ逐
 次接觸スル如ク構成セラレ接觸子(42)ハ保持子(43)ニヨリ
 棒(44)ニ裝着セラル、回轉環(40)ハ回轉導環(44)ト直結シ電
 磁石(48)ハ發射管(43)ニ外装セラレ可動鐵心(49)ハ發射管外

部ヲ滑動スルモノニシテ回轉導環(47)ノ溝ニ嵌挿セル導
 子(50)ヲ有シばね(51)ニ依リ常ニ前方ニ押サル
 又、本裝置ノ動作ヲ説明センニ本裝置ヲ有線遠隔制御
 方式車輛ニ裝着シ車輛カ運行シテ目的物ニ到達シタル
 時電動機(14)及(21)ヲ同時ニ若ハ各別ニ回轉セシメ發射管
 (13)ノ方向ヲ目的物ニ指向セシム、然ル後電動機(2)ヲ回
 轉セシメ同時ニ電磁石(9)ヲ作動セシムル時ハ唧筒(1)ハ
 燃料ヲ吸上ケ辨(7)ハ開キテ發射口ヨリ放射ス、次テ電
 磁石(48)ヲ作用セシムル時ハ可動鐵心(49)ハばね(51)ニ抗シ
 接觸環(41)ノ凸部ハ接觸片(39)ノ接點ト電路ヲ構成シマン
 ガニン線(35)ノ發熱ニ依リ放射中ノ燃料ニ點火セシム、
 次ニ電磁石(48)ノ電流ヲ切斷セハ可動鐵心(49)ハばね(51)ニ

依り原位ニ復スルト共ニ導子(50)カ回轉導環(47)ニ設ケラ
レタル斜溝ヲ壓シテ回轉導環(47)ヲ八分ノ一日周回轉セ
シメ次回ノ點火ヲ準備ス

本發明ハ上述ノ如クナルヲ以テ總テ之ヲ有線遠隔制御
方式ニ依リ操作スルモノニシテ車輛ノ運行發射管ノ上
下左右運動及燃料ノ發射點火ハ夫々單獨ニ若ハ同時ニ
遂行セシムルコトヲ得ルモノナリ、從ツテ狀況ニ應シ
車輛運行中發射管ノ上下左右運動ヲ行ハシメツツ火焰
ヲ放射セシムルコトヲ得ルモノトス

特許請求ノ範圍

本文所載ノ目的ヲ達センカ爲本文ニ詳記シ且別紙圖面
ニ示ス如ク壓縮瓦斯ニ依リ液体燃料ヲ噴出セシメ電氣

點火法ニ依リ點火セシムル如クシ、燃料發射管ハ曲軸
 臂ノ作用ニ依リ上下俯仰運動ヲ行ヒ得ル構造ヲ有スル
 裝置及電動唧筒ニ依リ燃料ヲ噴出セシメ電氣點火法ニ
 依リ點火セシムル如クシ燃料發射管ハ曲軸ノ作用ニ依
 リ上下及左右運動ヲ行ハシムヘクセル裝置ニ於テニ裝
 置共ニ有線遠隔制御方式車輛ニ裝著シ、有線遠隔制御
 方式ニ依リ火焰放射ヲ遂行セシムルコトヲ特徴トスル
 火焰放射裝置

陸軍大臣 林 銑十郎

説明ターゲット

次の原稿青焼の
ため不鮮明な部
分あり | 0633 ~ 0639

4 年 9 月 4 日

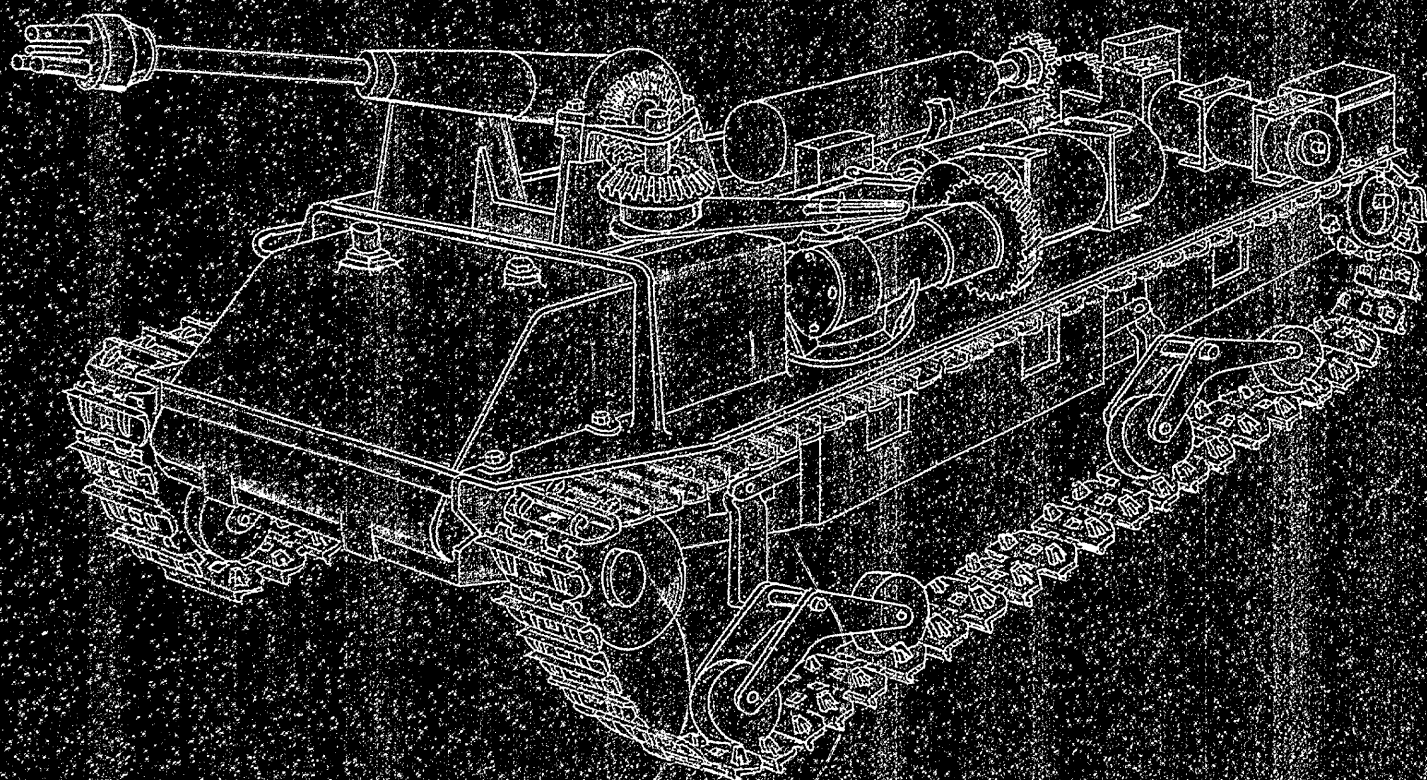
主務者又は

撮影立会者

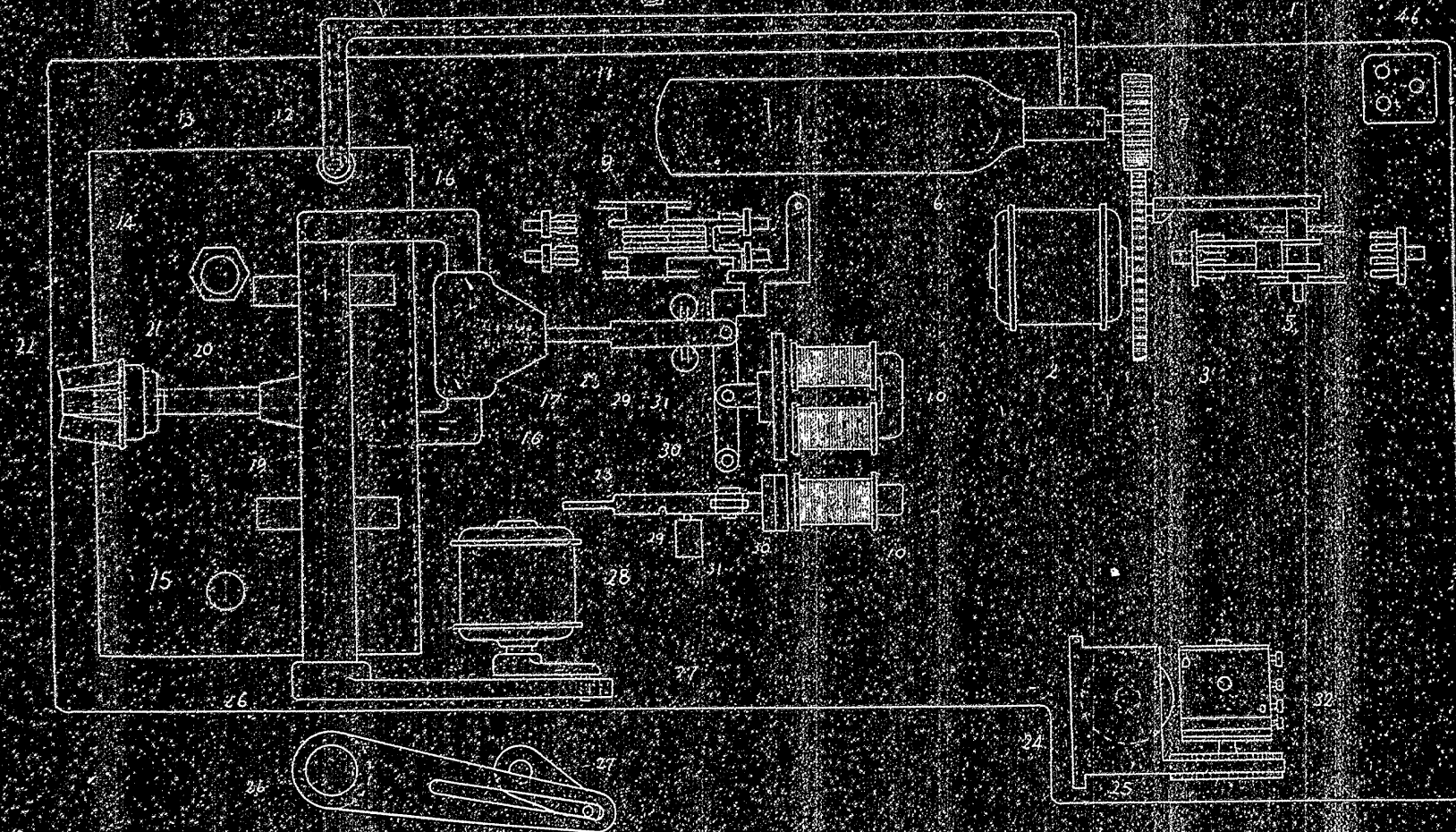
加部東保夫



第一圖



第一圖



第四圖

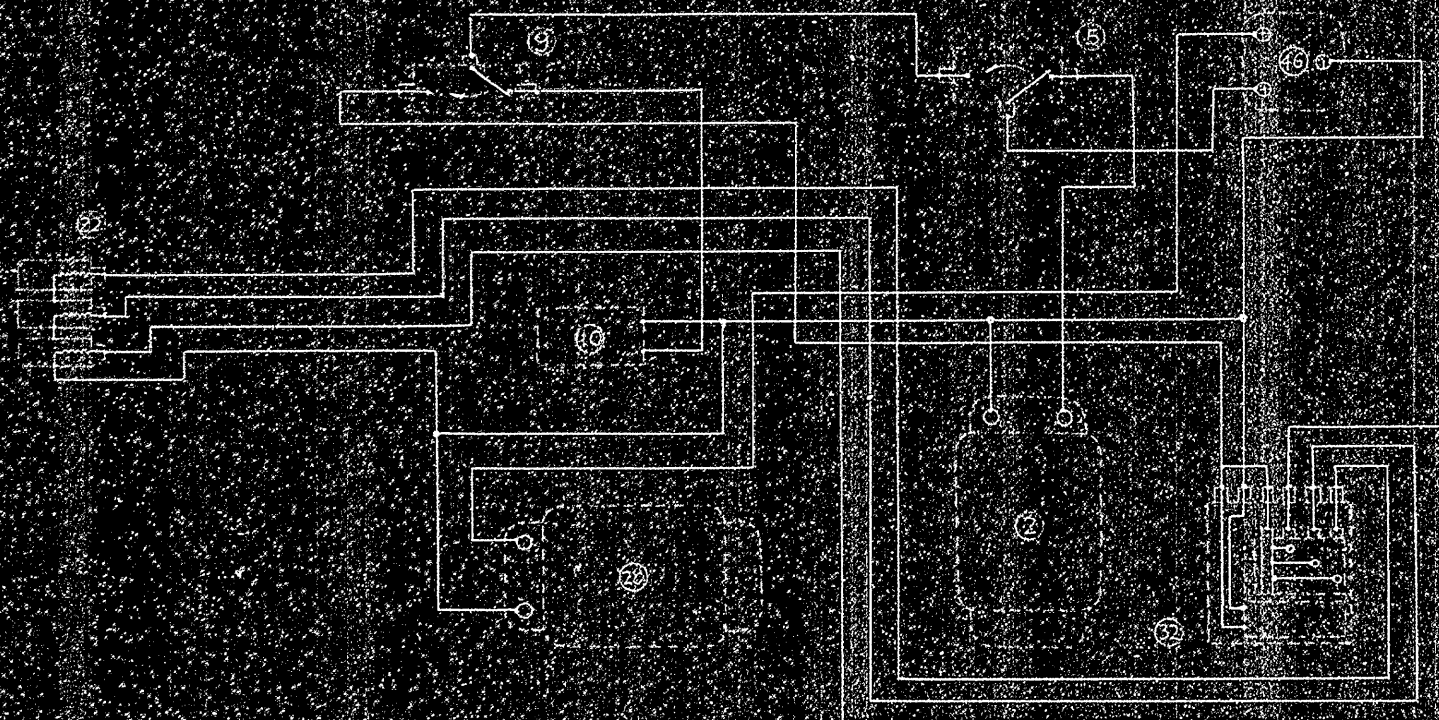


圖 五 第

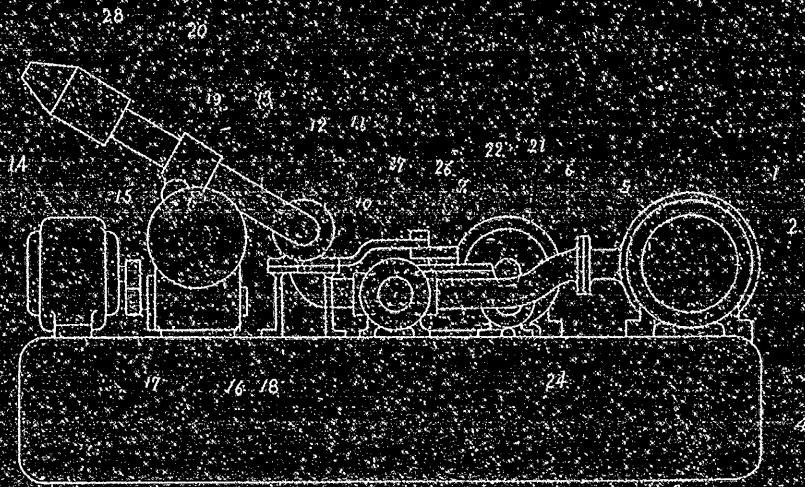
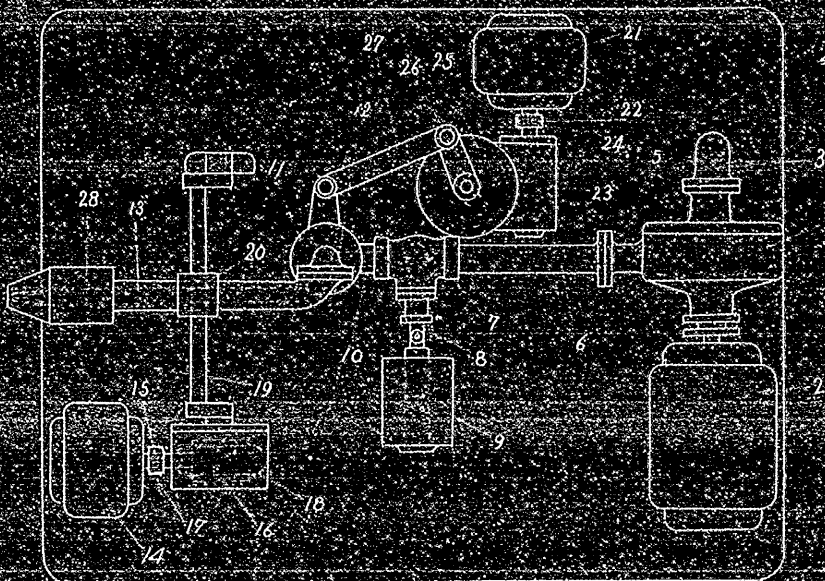
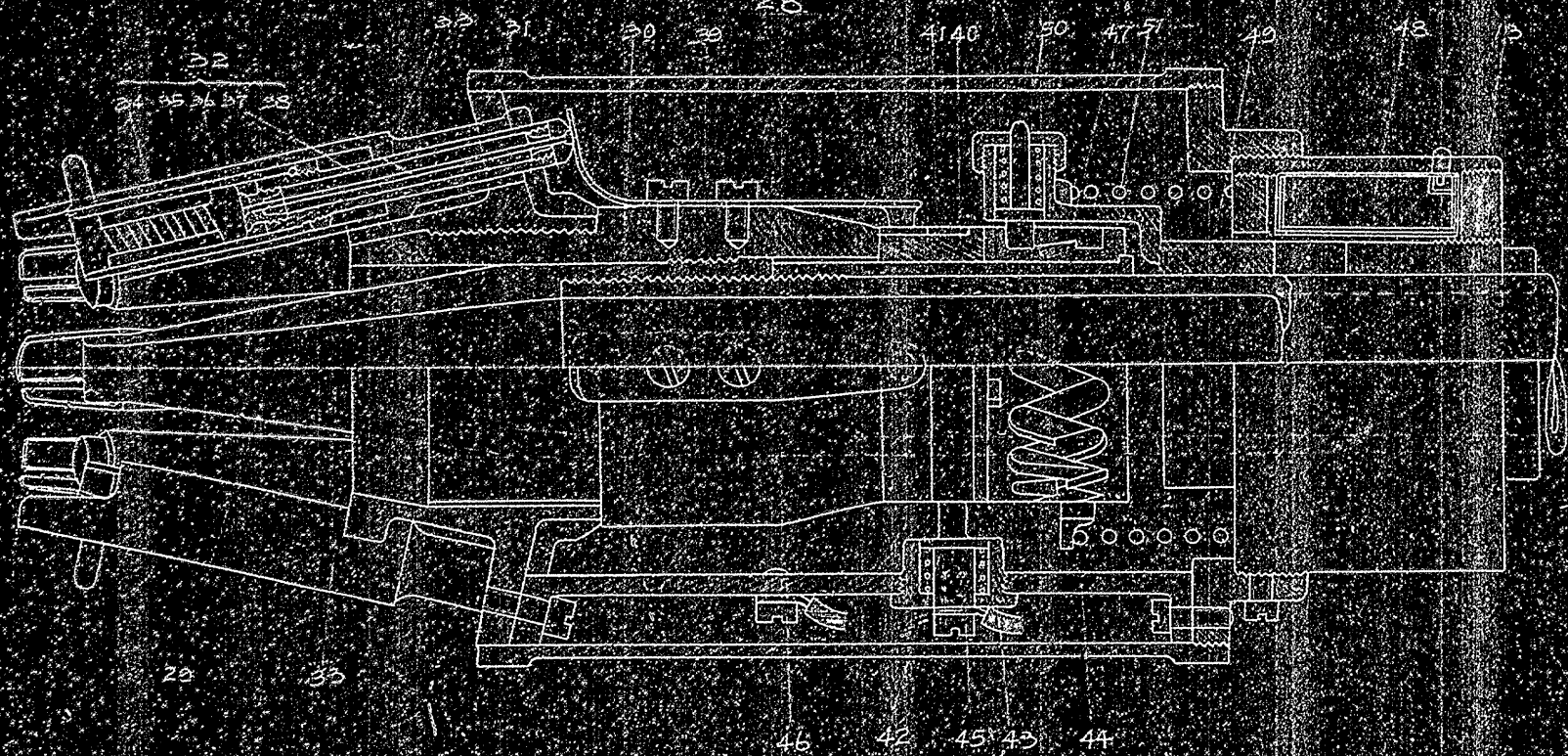


圖 六 第



圖七第
28



第一圖 八第

